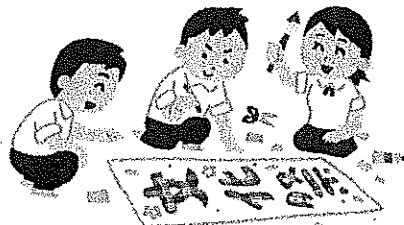


December
2016

この
のは
し
ゆ

RIKKYO SCHOOL IN ENGLAND

「OPEN DAY で劇を演じて」



私は、OPEN DAY のフリープロジェクトで演劇に参加した。劇の名は「UP TO YOU」二人の少女が入れかわるストーリーだ。私は、この劇でさまざまな事を教えられた。

小学校の時に劇をやったことは何度もあるが、どの劇も一つの役につき数人いたので、セリフは短くて覚えるのも簡単だった。しかし、中学生として初めてやるこの劇は、一つの役につき一人なので、覚えなければならぬセリフがみんなたくさんあった。私の役は少ししか出番がなかったのに、今までやってきた劇の中で、一番セリフが多かった。主役の場合は、とてつもない量のセリフを覚えなければいけないのだ。けれど、先輩たちはそれをスラスラと覚えたのだ。もちろん、最初は何となく覚えていたが、そんなのはつかの間。すぐに覚えてセリフに演技をつけていき、少しずつ調節し始めたのだ。私はその時、先輩達みたいに早くセリフを覚えるには、毎日寝る前や放課後に台本をみればいいのかと思った。

次に、私が学んだ事は、小さな小さなしぐさだ。私はまだあまりちゃんとした劇をしたことがないから、小さなしぐさをどういうふうにするか分からない。しかし、先輩は違う。顔の表情、手の動き、セリフがないときの動きをすべてやっているのだ。例えば、イラついてる時は、みけんにしわをよせて、腕組みをして、片足を何度も床にパタパタしたり、悲しい時は、肩をねこぜぎみにして、顔をうかない表情にしたり、うれしい時は笑ってガッツポーズをしたりなど、小さなしぐさがたくさん入っていることで、演技をみている側を楽しませることができると私は思った。私は、先輩達の小さなしぐさを見て、自分の役に生かそうと思った。

練習の時以外にも、先輩達から学ばせてもらった事がある。それは、本番の時だ。「何か失敗するかもしれない。失敗したらどうしよう。」と、いろいろ考えるため、ものすごくきんちょうする。私は、きんちょうのせいで上手く自分の演技ができないのではないかととても心配しながら演技をしていた。でも、先輩達は違った。きんちょうはしていたと思うが、そんなことに動じないでいつも通り落ち着いて演技をしていた。客からのひやかしの時だって笑ったりせず、演技に集中していた。私は、演技に集中するためには落ち着くことが必要なんだと思った。そして、私が一番すごいと思ったのが、先輩達の演技でお客さんが泣いたのだ。人を泣かせるほどの演技をするのは、相当難しいと思う。私は、まず最初に役になりきることが大切で、そこからどんどん修正していくことで、少しずつ先輩達の演技に近づいていけるんだと思った。

私は、これからどんどんいろんな事を学んで、すてきな演技ができるようになりたい。

(中学部 1年 野口 絵子)

演劇部さんへ、もう立派な俳優さんですね！スゴイ！先輩の何がすばらしいのか分析している点、そして「学ぼう」という姿勢、すばらしいです。今後の演技が楽しみです！渡辺

多くのことを学んだオープンデイでしたね。具体的に学んだ内容が書かれていて、喜ばれちゃいます。その内容の任せる作文ですね。斎藤 亜ナ子

沢山の学びがあった OPEN DAY だったようですね。ここでの学びに基づいて、来年のオープンデーに向けて練習を積み重ねていって下さい。もしかしら、来年は野口さんが人を泣かせることかでも目指しませんか。梅津 野口さんがいふように勉強にはこれという感動が伝わる。君が高級に、この時が楽しみ。とても素晴らしい演技でした。普段あらわさない様な姿を見せてくれる演劇は、とても楽しいです。

良き伝統を引きついで、もっとも上手になっていって下さい。野口

野口さんが努力したことがよく伝わってくるような文章ですね。素晴らしいものを見て、学ばせてもらって、演技の糧になってください。田中

野口さんの演技もとても素晴らしいです！どんなことから何を学んだのか、順序をおいて書かれていて、わかりやすく良い作文ですね。斎藤 亜ナ子

舞台おつかい様でした。先輩の演技や日常での仕事などを観察し、演技の引き出しを増やしていけるといいと思います。来年度さらにスキルUPした姿を楽しみにしています。

学校生活はやっぱり楽しかったです！多くの学びは、自分の行動で！伊佐治

舞台上で野口さんも光っていましたよ。多くの人と一つのものを創造する喜びと学びを得られてよかったですね！(梅津)

「泡沫の美」



毒々しいくらい真紅に染まり、剥き出しになった「ソレ」を前に、私は心を奪われていた。

「ドン。」

大きな爆発音。ようやく我に返り視線を上げる。そこには絶えることなくつぎつぎと夜空に咲き乱れる満開の花々。咲いては散り行きそして一瞬にして全てを出しきる。微かな火薬の匂いと共に今年も美しく、盛大にまた色鮮やかに咲いていた。

ふと視線を落とすとステンドグラスの様に不透明な艶を帯びたソレは空を舞う色取り取りの花火を反射し、また更に美しく映していた。そして私は表面に前歯を押し当て、ためらうことなく噛み砕いた。口内に広がる真っ赤に染められた水飴の強い甘み。口の中で溶けそして喉を通る。蜘蛛の巣状にひび割れた真っ赤なガラスはとても魅力的だった。さらにガラスの真ん中からのぞく肌には粉々になった赤い染粉が潜んでいた。

しかし最初の一口以降は、つまらないくらい平和な咀嚼が続くだけで私はすぐに興味を失ってしまった。

噛み砕くという少し暴力性のある行為。その行為により一瞬にして壊され、奪われるソレの完全性。美しく盛大に、また真っ赤な物が作られては壊されていく。そんなどこかが夜空に舞う花火の様で。魅力的で。「一瞬。」という物の美しさ、そして儚さを表している様に私には思えた。そして巨大な何輪もの花々もやがて最後には真っ暗な闇の中に消え、私の右手に咲いていた一輪の花も軸だけを残し跡形もなく消えてしまった。

私の記憶の中に残されたこの夏の思い出さえも次のこの季節にはまた違う色に塗り換えられているのだろうか。夜空に残った灰色の大きな煙を見て私は少しさびしく思った。

(中学部3年 大石桜子)

表現が大人びていて、小説を読んでいる様です。花火は、夜空に輝く美しきもので、その後に残る余韻とさびしさも、良いものですね。次はぜひ思い出になるか、おもしろいと思います。(利)

真赤と灰色の対比がよいですね。色彩が目にうかぶ鮮やかな文章ですね。梅田

音と色が映像としてダイレクトに伝わってくる文章で楽しく読ませて頂きました。

また「一瞬」というテーマで文章がまとまっている部分も素敵でした。伊佐治

夏の思い出を自分の言葉で表現されている作文ですね。何回も読んでしまいたい。来年の夏は高校生ですね、どんな色に塗り変わるのか楽しみです。切り取られた一場面の様子がよくわかります。「色」に着目して表現を、おもしろい。色々な使い方があります。是非、違った表現方法にも、チャレンジしてみてください。(谷川)

齊藤亜

タイトルだけでもおもしろい感じがする作文ですね。大石さんが言葉を選ぶところが楽しんでいる様子が伝わりました。田中

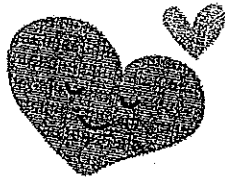
速い文章だ！僕ははついていけな...でも何故か心に響く...高校生のうまさはいい文章を綴り続けてい。小中

まるで映画か何かのようですね。細かい所まで二のわりの感じられる表現で、引き込まれます。一つのものをじっくりとみつめ、分析し、価値あるものに高められる技量に舌を巻きました。ありがとうございます！(梅田)

黒い夜空に毒々しいほどの赤、そこに大石さんの夏、白な肌も相まって、芸術的な美しさですね。小説のプロットの所で、読まをく、面白くなりました。斎藤批

なんだか近代小説を読んでいるような美しい描写か！ただただ驚きです！渡辺

「命の大切さ」



学校から帰ってきて日本に戻ると、家で待っていたのは段ボールに入った大量のうずらの卵だった。

聞くと妹がテレビか何かの紹介を見て、今年の自由研究はうずらの卵の観察にしたい。そういえば自由研究なんてものもあったなと懐かしく思うと同時に、本当に成功するのだろうかと不安にもなった。

卵はスーパーで買ってきた市販のうずらの卵を使う。その中にまれに有精卵が混ざっているそう。それを、タオルを敷いたダンボールの上にしきつめ、適度な湿度が保てるように水を入れたコップも段ボールの中にいれた。温度は常に30度以上に保つため、段ボールの下に電気カーペットを敷いた。さらに、卵の中でヒナがずっと同じ姿勢にならないように2時間おきに卵を45度ずつかたむけた。

本当にふかすかもわからない卵の面倒を見ること約2週間。^{家族}加須港で旅行に行くときも旅行先に持っていった。そして、旅行から帰ってきた日の夜、卵の様子を見にいった妹が、かすかな鳴き声を聞いた。そこからは大騒ぎだった。ビデオの準備をしたり、冷えないようにしたりして見守っていた。しかしまだ時間がかかりそうだった。

次の日の朝、私より早く起きた妹が、私のベッドのところに何かを持ってきた。それは手の大きさの半分もない小さなヒナだった。ただ「小さい」というより、小ささが実感を伴って感じられる
「本当にふかしたんだ。」
表現ですね。

となんの世話もしていなかった私が感動するくらいだから、毎日かかさず世話をしていた妹はもっと感動したはずだ。

それからは買ってあったヒナ用のエサを1日に5、6回にわけてあげ、水を飲ませたりした。鳴き声は日に日に大きくなっていった。とてもかわいかった。しかし、ふかしてから4日目、急にぐったりとしてしまった。鳴き声も小さくなった。その次の日、見てみると足から血が出ていた。急いで獣医に見てもらった。骨折していた。包帯を巻いてもらって薬も飲んで前のように鳴くようになってほっとした。

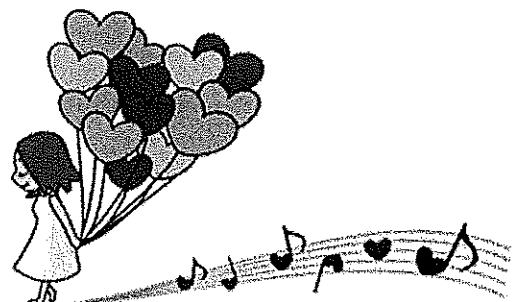
翌朝、目が覚めると妹が泣いていた。まさか、と思ったがすぐにそれはない、とかき消した。きっと他のことだよ……。部屋の外で母と妹が何か話していた。気になるけど、聞きたくない。もし聞いてしまったらさっきのまさかが当たってしまうかもしれないから。私はそのまま寝たふりをした。しばらくしてから起きて歯をみがいていると母が来て首を横にふった。すぐになんのかわかった。まさかが当たってしまった。私はわざと平気な顔をした。本当は泣きたかったがいつも私は素直に泣けない。

ふかしてから6日。家族は1人もいない知らない場所に生まれ出てきて、小さな体にいろんな傷を負って、とても辛かっただろうなと思った。

6日間だけなのにこんなに悲しいなら犬や猫みたいに何年も一緒にいたのに突然死んでしまったらきつともっと悲しいだろう。今までただの憧れで犬を飼いたいと言っていたが死んでしまった時のことを考えていなかった。

人間も一緒だ。どんなに大切な人であっても特別な人であってもいつかは必ず死んでしまう。そのことを考えるととても怖くなる。でもだから一人ひとりとの時間をもっと大切にしようと思う。そんな夏休みだった。

(中学部3年 柳田麗安)



手順がしりり
説明できている

お世話した様子の
丁寧な説明
短く文の歯切れが
いい感じが
いいですね

家族みんなが命の重さに触れて、心を動かして泣き傷めたり。そういうきっかけをくれたヒナの一生は短くともとても豊かで、ありがたいものだったのではないかと思います。ヒナはここで産まれて見守られて、とても幸せでしつてね。このめぐり合わせと、自由研究を思いついてくれた姉さんに「ふまで」感謝したい気持ちです。作文の構成としてもとてもよくできています。起承転結の流れ、感情表現と事実説明のバランスが優れていて、良い作文だと思います。(梅田)

とても素晴らしい作文です。命の大切さと、君の心の中が良くわかります。君が思ったこと、

感じたことは、人間が人間として生きる上で、とても大切なことです。ネー

柳田さんの文章を読んで、小さい頃に犬が突然死んでしまったことを思い出しました。死と直面し、命と向き合った、とても大切な事でしたか。ここで感じたことを一生大事にしてほしい。

国語の教科書の文章のようですね。柳田さんの感じた感動や悲しみ、恐怖などが文から強く伝わってきました。すばらしい夏休みでしたね。斎藤亜

とても良い作文です。できごとのものは、とてもなく悲しくて、有精卵にふて生まれた命を、最後まで生を全うさせてあげられなかったことが、衝撃と共に心に響きます。命が与えられたとき、すぐに死が訪れない生でありたいものですよね。

文章自体は、手順や世話の様子が丁寧に説明できていますし、気持ちと表現するときも、思ったことを短く重ねてゆくことで、真に迫った感情が読み手に押し寄せてきます。様子の描写と気持ちを交互にくり返して書いたのも良いですね。優れた作文だと思います。mon

命の大切さとか、家族の愛とか、人生の切なさとか...いろいろな事が若い心に広がっていた。

実感のこもった文章がどれも心に響きます。自分の気持ちだけでなく、

姉やヒナの視点も描かれていて柳田さんは他者の気持ちも思いやること

できるめったになくて、繊細な心ももった人であるということがよく伝わる素晴らしい作文ですね。田中

ヒナという小さなかわい生命から、人間の生命へと発展して深く考えられる思考力すばらしいですね。"死"とは怖いものですが、しかし死があるからこそ生が輝くのでしょうか。人はいつか死ぬものです。だからこそ、自分の人生をいかに輝かせるかを考えながら一日一日を過ごすして下さい。渡辺。

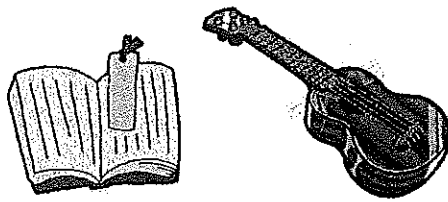
命の大切さというのは、普段の生活では忘れがちですね。

こういふ機会があると、ふりー層、大切さを感じられますね。いい

柳田さんの様子や心情が素直に表現されている文章だと思います。命や人生への気がまを大切に日々を過ごしてほしいと思います。



「イタダキ」



僕の面前には多分、今まで生きてきた中で打ち当たった一番高い壁‘高校受験’が、その太い胴体を堂々とかまえて聳え立っている。どれ程の高さなのかなど、見当もつかない。その高さ、険しさに圧倒されて一歩後ずさりしながら考えた。

僕の正面には、地底から山を貫いて空に打ちつけられたくぎのような岩が見える。槍ヶ岳。長野県と岐阜県の県境にある山で北アルプスでは第2位の標高3180mの高峰だ。僕の正面にはその名前の由来でもある、槍の穂の様な大きな岩がバランス良く鎮座していた。震える足が重く、閉じたままの口の代わりに疲労や寒さ、痛みを物語っている。

2日間。1日何十キロもあの山の上から見える景色を目指して父と弟と、3人で歩いてきた。たったそれだけのために僕は1日目から筋肉痛の下肢を無理やり動かし、強い紫外線と悪い足場の中を延々と歩いてきたのだ。そして今、右足を岩のくぼみにかける。右手を適当な位置にかけ、ゆっくりと、左足を地面から離す。左手、右足、右手、左足という具合に少しずつ動かしていく。急に体を受ける風が強くなり、恐怖が背中をなめる。

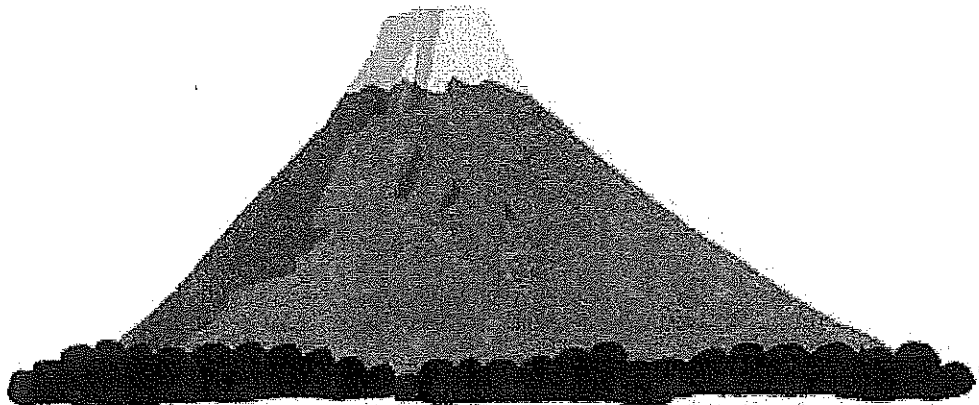
父の趣味は多彩だ。マラソンや読書、ギターやウクレレ。僕は小さい頃からこういった父の趣味に付き合わされていたと思う。そんな父の名物、「突飛な思い付き」によって山に登る事になった。だから僕は父に付いて行く形でずっと山を登って来た。しかし、今は違う。横を見ても隣には誰もいなく、冷たい風が顔をなぶるだけだ。僕は一人だった。見えない頂を目指して最後にかかっているはしごを一人で直向きに登る。残りの段数が少なくなるにつれ心臓の鼓動が速くなっていく。そしてふいに手が空にかかった。しっかりと頂上を右手でつかみ、慎重に上っていく。

頂から見る景色はどんよりとした重い雲におおわれていて、あまり好ましいものではなかった。この景色のために2日もかけたのかと思うと笑いそうになる。しかし僕には、それ以上に心に残るモノがあった。

そして今、僕の目の前には過去最大の壁である‘高校受験’が待ち構えている。どれ程の高さだろう？圧倒され一歩後ずさる。当然僕の隣には誰も居ない。これから僕はずっと見えない頂上を目指して一人で壁を登らなければならないだろう。まだ少しあのイタダキで感じた温かさが残っているから、がんばれると思う。

幸い、遺伝なのか父と趣味が似ている事が僕の救いだ。

(中学部3年 鮎田忠治)



相變の可^レ良^ク差^シて^ニ構成^ス可^レ也。多^ク變の^ニ辛^クと緊張^が良^ク低^ク、^テ以^テ文章^ニ可^レ。

「イザナチハ心(マコト)を置けり」と、これより分り合ふ事になる。……小杯

山登りでは、一歩足を前に出せば"必ず"一歩ゴール・頂上に近づく。足を踏み出すとを止めさえしなければ"必ず"終わりがくるのです。受験も同じですね。諦めさえしなければ"思の外"簡単にのりこえられる壁かもしれません。
(梅田)

高校受験を終った後、二度の世界はまた格別なものになる。それは、17歳から。(40p)

景色以上に、心に残るモノは どんなものだったのでしょうか。山登りや受験を重ねよく考えられている作家ですね。3月に見える景色はどんなものでしょうか。齊藤亜

一歩の歩みもゴールへの道のりとは限りません。時には予わり道に
 なって1歩も一歩もあるでしょう。12に歩み続けるのはよく、
 自分の進む一歩は、1つだけゴールに向いている。ふりがえてみて、
 ぐんぐん。(笑)

最後の一、好まざる。高校受験、自分の力でし、かり乗り越えて下さい。(批)

鮎田氏の文章はいつも小説のような雰囲気があり印象的です。

最後の一文で落とすところなんてしゃれていて良いですね。田中



2日間 かけて 頂上にたどりついたとき、感じたものは、自分の足で登~~り~~りき、た
からこそ感じるこゝろがでま。たものでしょう。山登りも受験も誰かに代わって
やらせてもらうことはできません。自分との戦いでもある受験を マジとに
のり切って欲しいと思います。 (伊)

山に登るとは、いつも自然に向きあえた頃の自分の小生さを感じます。だから三つ、登り切った頃の爽快感も格別です。受験が終わった頃、もっと同じ気持ちになって思います。それまで、ガンバレ！ 市川

うん、力強い作ですね。山登りの踏^ふみめる描写、
筋肉の動き、心臓、空気が肌をかすめる音……さざさざと
よみがえるかのようです。受験と山は一般的なお例ではありますが、生き生きとした描写が、^お魚村の君らしい味わいと強さ
をもった文章になってますね。私も山登りが好きですが、
下りたあとに必ずもう一度、その翌日登りたくなる衝動に駆
られます。人生の挑戦もかくアリノコい。~~~~~

一步一

「理系」

理系。理系は、数学や理科などの科目を特に重点的に学ぶコースで、立教では高校2年で文系・理系に分かれて勉強する。

私は理系に進んだ。理系に進んでから、ふと思ったことがある。「なぜ私は理系科目が好きなのだろう。」周りの理系の子は、親がそういう仕事に就いていたりする子が大半だ。私の両親は特にそういうのではないし、兄や弟に関しては理系科目は苦手らしい。私も理系科目がとび抜けて出来るわけではない。それでも理系科目がとても好きなのだ。

考えているうちに、私がまだ小学校に入るか入らないかの時のことを思い出した。私の両親は忙しく、兄や弟のこともあって、私はよく母方の祖父母の家に預けられていた。祖父母は、その辺り一帯に農地を持つ農家で、私は時間があるとそこで一人で遊んでいた。種蒔きの手伝いや季節のものの収穫を手伝い、夏はぶどうの葉のカーテンの下でよく昼寝をした。祖父母は優しく、手伝った後はいつもご褒美にアイスやお芋を食べさせてくれた。今でも覚えているのは、ふかふかに耕した畑に裸足ではいって感じる冷たく涼しい感触。⑥ 小森

私は今時の子よりも多くの体験を肌で感じてきたから、今、私は理系科目、特に生物が好きなんだと思う。周りから見れば、数学や化学には関係ないと思うかもしれないけれど、私は身近にこういうことがあったから理系科目にもしっかり取り組むことができたのかなと思っている。

今はまだ理系の端くれだが、いつか大人になった時、自分のなりたい者になるため、これから頑張っていこうと思う。すぐ近くに迫っているケンブリッジ大学でのサイエンスワークショップが楽しみだ。

(高等部2年 森 英里奈)

森さんの学びの原動力がよく伝わる文章ですね。女子きなことなら例えうまくいかなくても、楽しめなくても楽しめますね。この気持ちを失わないでください。(梅田)

素朴な文体? ものすごく感動的。いい人生歩んでますね! (小森)

理系に行きたいと思った理由が、例えは「原子が」とか、「重力が」とか、そういう難しい理由からでなく、小さな頃の温かくて素朴な体験からであるということ、とてもすてきに感じられました。その体験を大切に、理系を学んでいって下さい。渡辺

何かとわくわくする。きっかけを覚えてくれたご両親、おじいさん、おばあさんに感謝ですね! 自分の「好き」の理由を小さな子供の頃に与えられた森さんもすごいです。梅田

小学校の頃のできごと、森さんの文章から目に浮かびました。豊かな自然の体験とても大切ですよ。貴重な体験をいかりおぼえて、そこから学ぶ森さんの姿勢は素晴らしいですね。斎藤

子供の頃の体験は、その後の人生に自分で思っているよりもずっと大きく影響しますね。ケンブリッジでの体験が、また森さんの人生を大きく左右するかもしれませんね。梅田

子供の頃には夢にも思わなかったであろうケンブリッジ大学でのサイエンスワークショップはどうでしたか。あなたに「好き」という気持ちと大切にしてください。田中

思い出の中の描写と彩る表現が、とてもやわらかいですね。自らの向かう道が、どこから来たのか、探ろうとする様も、高2生らしくにじみます。「もっと」を考えるならば、子供の頃のことと、今の興味、これから目指すものを掛け合わせて書くなどしますと、文章に前へ向かう勢いや張りが出ると思います。mom

過去を正しく振り返ること、自分で理解した、と信じてく作ります。あらゆる岐路において自分を振り返ることは重要ですね。生物が女子きずあいにともに、地理も好きなんだと思いました。(市川)

人生を歩んできたかという事は、将来の自分につながるのではないでしょうか? 歩むべき道を歩んでいく人生の「今」(谷川)

ケンブリッジのサイエンスワークショップを体験し、何を感じたのでしょうか? 過去の経験と共にこれからの経験によってより素敵な未来を築いていきたいと思います。(佐伯)

「お先真っ暗受験デイズ」



虚無感。僕の高校最後の、高校3年生としての夏休みを振り返るなら、この一言に尽きる。受験生の夏休みは天王山と呼ばれている。もちろん僕は夏休みの間、天王山を登っていた。いや、登っていたつもりだったかもしれない。なぜならいくら登っても登ってもまったく山頂が見えてこなかったのだ。そうして時間が過ぎていき、夏休みが終わった。そこで夏休みに登った分の標高を山頂として考えてみたら、実は高尾山ぐらいの高さを登っただけだったかも知れないと思ったのだ。確かに勉強はコツコツと進めていったはずだった。しかし自分の実力が自分の思っていたよりずっと伸びなかったためにこんな思いをしているのだろう。

しかし、学校や塾の先生たちは大丈夫だと、これからちゃんと伸びてくると言う。受験生初心者の僕にとってこれから先はずっと真っ暗だ。ゆっくりと、ちゃんと道があるかどうかを確かめながら前に進みたい僕に彼らはこう言い放つ。

「信じて真っ直ぐ走れ。道が途中で断たれていたなら、その時にまた考えればいい。」正直なところそんな言葉は信用できない。だが彼らが今までたくさんの受験生に対してその言葉をかけ、実際にその通りにしてゴールへたどり着いた受験生がいるのは確かだ。であれば、それを信じるしかない。実際に成果が出ているのだから。

とても怖い。当たり前だ。役に立つかも知らない道具を持って何も見えない暗い道を疾走しようというのだ。怖くない人がいるだろうか。

しかし、想像してしまうのだ。何万、何十万という受験生に打ち勝ち、見事志望校に合格する自分の姿を。

(高等部3年2組 南谷知輝)

天王山に向かうより、すぐな思いが飛び込んでくる。作エ
です。迷い、不安の中にあっても道を伸びている様子が
目に浮かびます。今はひとすらも、すぐ進みます。それが
南谷君の道。

高尾山に登った実感が得られただけでも立派だと思います。

「合格、バグルではありません。更にその先をしっかりと見据えて頑張ってください。」

受験を終えて見える景色はきっと素晴らしいはずです。成長のための良い機会(14)
だとして、最後までがんばってください！ 田中

タイトルいつもおもしろい。文章構成も、文句も好き。文章「虚無感」の書き出し、「とても怖い」「そんな言葉信用できない」「役に立つかも知らない道具」...etc. 受験生の気持ちの痛いほどよく伝えています。文量短め！神様はいる。小中。夏休み成績がぐっと上がると思ってしまうから。不安の中にも、面白いタイトル、いい文章。最後までがんばってください。自分もがんばります。おめでとう。

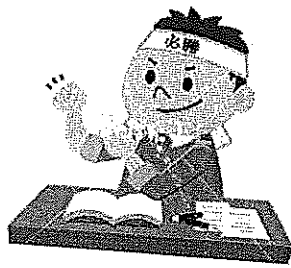
目標をもち、それに向かって努力している人は特別な刺激を受けているように思えます。南谷さんの受験に向けている努力は、試験にも今後の人生にも必ず役に立ちます。受験のゴールから見える景色はどんなものか楽しみです。齊藤
けいて歩みを止めない力強さを感じます。荒地を越えて、勝利をつかんで下さい(ネリ)

受験勉強中は、勉強しても勉強しても安心できなくて、不安がつきまとうことがあるでしょう。しかし、自分のできるかきりのことをその時その時やるしかありません。最後まで突き進んで行ってください(15)

受験を通して得る「立ちあがり力」は今後の人生の大きな糧になります。もがき、苦しみ、血を流さずとも、思いをしたら、その後何まわりも大きくなった自分に出会えるはずです。

それが合格の通知と共にある自分であることを、いかに願っています。がんばって!! (梅田)
自分と信じるように受験を乗り越えてください。(谷川)

「夏の終わり」



夏休みが終わる直前、僕は模試を受けた。夏やってきたことを全て出すべき場であった。だから、僕は相当な気合いを入れていた。しかし結果は最悪。

僕は夏、もし勉強していたかと聞かれたら、した、と十分答えられるくらい勉強した。僕には夏の勉強に関すること全てを記録したノートがある。きちんと計算したことはないが、一日の平均勉強時間は13時間。少なくとも、夏休みの約50日間、毎日10時間以上は机にかじりついていて、ご飯を食べている時でも、塾に通う時でも勉強していた。息抜きをした日は3日あった。それでも10時間は勉強していた。毎朝5時50分に起きて、12時過ぎに寝る。規則正しい生活もきちんとしていた。それでも、死ぬほどやったつもりではないが、十分やったとは言えると思う。それなのに、だ。

模試は、受けている最中でも感触は悪かった。今まで、受験勉強を始めてから、模試の成績も、ましてや判定なんてものも気にしたこともなかったが、この模試に関しては悔しくてしょうがなかった。

昨年の12月から僕の成績は上がっていた。特に国語なんて著しい変化を遂げた。英数も成長が見受けられる。社会だって基礎も前より身につけていると実感できる。受験勉強を始めてから初めての挫折だった。模試が終わって、自己採点を終えて会場を出た時、夏のすべての時間が無駄にさえ思えた。

涙が出ていた。台風が近づいていて、大雨だったのは幸いだった。

次の日、また僕はいつも通り5時50分に起き塾に向かった。しかし、思考回路が止まっていて手が進まない。だめだ、と思い、近くの公園に行った。なんでなんだ。あれこれと原因を考えていた。思えばこんなに僕を本気にしてくれたものはなかった。今までの自分を見て、夏にあんなに同じことを繰り返すことができたのはあり得ないとまでも言えることができよう。自分は明らかに成長しているんだ。ましてや今も成長している最中なんだ。どうして結果が簡単に今出よう。そもそも、こんなに努力したことがないのにいつ成功が来ることを知っているんだ。今、やらなければいけないことはただ努力し続けるだけ。

「よし、やるか。」

僕は塾の自習室へと帰って行った。

(高等部3年2組 柏樹健生)

努力と独白が交互に語られ、短い文で端的に繰り返されるリズムも印象的です。受験は規模が大きく、努力のうちにすぐに実感が表れるものでなく、非常に度々難しい諦め、止めない、1がみついても努力する...人の力は自分自身になるように。

本当に一生懸命やったのに結果が伴わない時は、1. 努力の結果がまだ実感できていない 2. 努力の方向がまちがっていた 3. 努力が足りなかった のどれかでしょう。今の時に、自分の努力の仕方について振り返る機会がもてたのは本当によかったですね。それこそがあなたの努力の結果、得られた成果の一つであると思います。努力しなければ気づけなかったことです。おめでとう。これからさらにがんばってください! (千毎田)

努力の結果得たものは受験の結果以上のものだと感じます! <じけそう>な自分を悔い直し、柏樹君、精神力的にもどんどん強くなっていくと思います。梅中

毎日の繰り返しの勉強、苦しいこともありますが、柏樹君の作文からは柏樹君の生き生きとした姿が伝わってきました。努力は本当に美しいものです。斎藤

「悔しいことは本心になって初めて出る感情ですね。その力がバネになって、高く跳ぶことを期待しています。」 (ホリ)

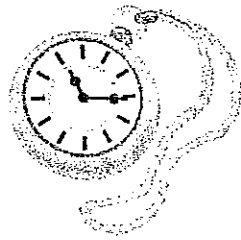
受験の道のりは、簡単なものではないでしょう。しかし、このように努力したこと、挫折所の経験は、受験だけでなく、後の人生でも、生きてくるといいます。(伊伊佐玲)

柏樹くんと同じように、もしかしたらそれ以上に、周りの他の人も頑張っているということ。

この悔しさに負けず、更にがんばっていきましょうね。希藤 礼

柏樹くんの勉強に対する姿勢が変えてきたことを教えていても感じます。この文章からもあなたの熱意が伝わってきました。田中

「与えられたもの」



ふと視線を上げ、見慣れた白い文字盤をぼんやりとした意識の中確認する。時刻は午後 11 時 40 分。いつからだろうか、一日が終わる度に、「ああ、また終わってしまう。」と感ずるようになったのは。

この頃、誰もが知識としては持っているであろうごくごく普通のこと、実感とともに気付きつつある。自らを取り囲むほとんど全てのものに「限り」がある、ということに。

分かり易いものを挙げるなら、時間など良い例ではないかと思う。決して等しくはないが、世界中の、一つの例外もなく全ての人が持つ、限りあるものの一つだ。

自分の成績に大きく影響するかもしれないような大切なテストの前日に、気合を入れて臨んだ最後の仕上げ。それが終わらなかった時など、特に僕の学校のように寮での就寝時間が決まっているような環境下では、そんな自力ではどうしようもなく、抗いようがない「限界」を目の当たりにする。

先に述べたのは日常の中での小さな気付きの一つだが、数ヶ月前、イギリスでの滞在中に日本の両親から知らされた、祖父の死。あれもまた、一つの気付きだったのだろう。それまで血の繋がった家族の死というものを経験したことがなかった僕は、何も考えずに大好きだった祖父が他界したことへの悲しみに暮れるばかりだったが、今思い返すとあの知らせを聞いた時、僕は人に与えられる時間には終わりがあるという当然の事実を、強烈に、且つ明確に思い知ったのだと思う。

そんな、この世の中で生きる限り自分に付きまってくる、限界や終わり。それらのことを良く知り、しっかりと向かい合って生きていく必要がある。そうでないとひどい勘違いをした僕らは、時間はまだまだあると日々を無為に過ごし続けるだろう。

僕の両親は限りある時間とその身を削り僕を育て、作り上げた限りある財産を、僕の未来のために惜しみなく注ぎ込んでくれる。

さて、こんな事を考えていると、いても立ってもいられなくてはならないか。どうしてダラダラと作文など書いていられよう。

僕がすべきなのは、あらゆることへの感謝を忘れず、一秒一秒を後悔のないように生きること。それだけだ。

(高等部 3 年 2 組 森涼)

◎ 齊藤亜

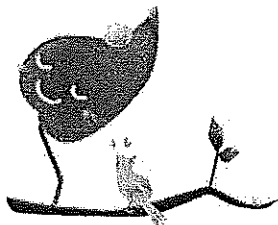
「無為」に生きるということとは、どっしりとした無駄なことを減らし、改めて考えてやること。とて現ういことですね。この発見も、自分の生きる道標にしてくれませんか。(谷川)

「限界」という着眼点から、豊かな思考を書いてくれました。確かに、自分も無為なことを減らし、と思わせる良い文ですね。(市川)

最初の文が立派な文章でいいですね。「後悔のないように生きる」とはどっしりとした、これまでに考えたことがないですね。(梅田)

何が失われて初めて失ったものの価値や尊厳に気付くことが多々ありますが、本日は常々僕から「与えられたもの」と大切に生活していくことが何よりですね。私も少しは気づかされました。田中
この時期いろいろ事が見えてくるのは何故だろう? (受験とか) 大きな壁の前で現実と向き合っている事が見えてくるのも知らない。ふたつともいろいろ発見があるもの。という、本気で自分と向き合っている時間がはじまっているというですね。「メント・モリ」という言葉があります。有限だとわかっているからこそ、それを意味あるものにすることのために努力ができるのです。あなたも私も、皆 楽な方に流されることなく、自覚的に有為の人生を歩きたいですね。(梅田)

「輝いて」



皿並べが終わって、New Hall から出た瞬間、ぶるりと体を震わせた。寒い。風は微かながらも冷たく頬を撫でた。こんなに寒かったっけ。そう思いながら白板を見ると11月と書いてある。えっ、もうあと1ヶ月なのか。この学校から居なくなるまで。

2年前。高校1年生だった私。髪が短く、ネクタイも結ぶことが出来なかった頃。初めての事だらけでまごまごしていた。その時の自分を見る事が出来たのなら、きっと吹き出してしまおうだろう。当時の、未来の事なんて微塵も考えていなかった、青い私だったから。

1年前。高校2年生だった私。髪は伸び、ネクタイも時間はかかるけれどなんとか結べるようになった頃。1年の差で思い出せることはかなり多くなる不思議。真ん中（高校生の中で）というのはひどく気が楽だ。慣れた私はいろんなことをした。楽しいことは今でも口元が緩んで、心が明るくなるし、愚かなことはナイフで切られたような感じがして、顔をしかめる。実に生々しく、私の中で生きている。いつでもほんのり熱を帯びていた私だった。

そして、今。髪は長く、他学年とは違う色のネクタイをしっかり締めている現在（いま）。本当に早かった。ほんとうに。大きい机でこれを書きながら、痛感する。これも最後、あれも最後。この作文だってそうなのだ。私は思う。こうやって書いているから思い出すことだって沢山あるけれど、これから先思い出すのだろうか... いや、きっとふとした、本当に何気ない瞬間に思い出すのだ。切ないような、安心したようなそんな心の中。

これから、したいこと。皆で星を見に行きたい。去年とても感動したのを思い出す。今回はまた違うように見えるのかな。きらきら光る星達の中で、今までの思い出、記憶達はより一層あざやかに、煌々と輝くだろう。そして時が経って、私が青くなくなったってそれは常に心で輝き続けることだろう。

そんな風に思いながら、冷たい頬に手を当てた。手はもう冷たくなって、ほんのりと温かくなっている。

（高等部3年2組 服部みなみ）

ここを卒業して後には、ふと何となく、それこそ日常の何気ない時の全てに、ここへあなただけが学んだことや感じられるようになったことが今のあなたを作っていることをひいと感じるようになると思います。冬の朝の冷たい空気にふれる、さと思い出して

美しい文体がちりばめられている、さすが読書好きの服部の作文、というかんじですね。今後ともそういった美しい言葉を大切にしていって下さい。その言葉たちが人生をより豊かにしてくれまあよ。渡辺

言ってみてくださいね。H3最後の大切な時期がすぐ終わります。でも君達にはこれからもっとも大きな世界が開ける。---そんな予感もその裏にはあるからね。小中

小説を読んでいるかのように感じさせる文章ですね。毎日の何気ない出来事の中に沢山の思い出が潜んでいる。それを敏感に感じとる服部さんの感性が素敵です。立教の外に出からも、いまでも大切に頑張ってください。斎藤

立教生活における日常が小説のように描かれていて素敵です。また卒業すると感じることも変わってくるかもしれませんね。田中

このまでの読書やまとめた文章ですね。数年後の思い出です。必用。

日々の流れが服部さんの変化と共にわかりやすく伝わってきます。これからの成長も楽しみです。斎藤

1年は365日もあるのに、大人になって高校生時代を思い出すと、何気ない出来事が印象的な場面がセリ取りと、頭に浮かびます。今やちょっと前に起こったことが"とんとん"遠くなっていくけれど、何気ない瞬間に思い出せる記憶をきちんと大事にできたかなと思わせてくれる文章でした。伊佐治

風とか、星とか、こういう大きな何かの中に生きている自分、そんなことを感じて生きていく。梅津

あ、という間の3年間でした。この前は残っていたが、たいてい皆で星を見に行きたい。日本から星をながめながら、このことを思い出してくると、嬉しいですね。ホリ